



日本を代表する風景地である箱根を皆さんの協力で美しい街並み景観として維持していきましよう。

景観に影響を与えるものとして広告物があります。町内では景観を守るために広告物（のぼり、看板、立看板、はり札など）の設置には手続きが必要となっています。県条例の「屋外広告物条例」と国立公園に関する「自然公園法」の手続きです。

屋外広告物条例
本条例では禁止地域と5種類の許可地域を区分し、原則として禁止地域では屋外広告物の表示や設置は禁止されています。許可地域では許可申請が必要ですが（ただし、許可地域内の10㎡以下の自家用広告物など規制が除外されるものもあります）。また、ガードレールや道路標識

ック、チャアリーディング、ダブルダッチ
ブルダッチ
アトラクション
ミニSSL、フワフワ遊具「おさるぼりん」
健康相談
ドッジボール大会
照会先 西さがみ連邦共和国事務局 ☎0465・33・1254（当日の照会先 小田原市スポーツ課 ☎0465・38・1149）

ツク、チャアリーディング、ダブルダッチ
ブルダッチ
アトラクション
ミニSSL、フワフワ遊具「おさるぼりん」
健康相談
ドッジボール大会
照会先 西さがみ連邦共和国事務局 ☎0465・33・1254（当日の照会先 小田原市スポーツ課 ☎0465・38・1149）

広告物の設置について

街路樹、郵便ポストなどに広告物を表示または設置することは禁止されています。

本条例に関する手続きは神奈川県小田原土木事務所（☎0465・34・4141）へお問い合わせください。

自然公園法
広告物設置には、事前に届出または、許可申請が必要となります。自己営業表示看板、標識類（誘導看板）、案内図などそれぞれに設置数、サイズ、色の基準があります。色彩は原則として茶地に白文字としています。

例えば、のぼりは営業所内に2本まで（表示面積1.5㎡以下、高さ3m以下、色・緑・白・茶・黒の3色以内）となっています。詳細は、環境省南関東地区自然保護事務所のホームページ「箱根地域における広告物の審査基準(概要)」をご覧ください。本法に関する手続きは環境省箱根自然保護官事務所（☎4・8469）へお問い合わせください。

景観法の施行により、全国で景観への意識が高まり街並み景観の取組も各地で行われています。町民の皆さんはもちろんです。観光客の皆さんにも美しい箱根

小田原マナー大会!

西さがみ連邦共和国

第3回
マナー大会



ニユースポーツ、レクリエーション、チャレンジゲーム、デモンストレーション、ミニSSLなど、お子さんからお年寄りまで気軽に楽しむことができる内容が盛りだくさん。

小学生によるドッジボール大会や3歳未満の幼児による赤ちゃんダービーも行います。

秋の一日、ご家族や友達とさまざまなスポーツに挑戦してみてください。

日時 9月23日(金)9時～15時
雨天決行(屋外種目は中止)
場所 小田原アリーナ、東富水小学校グラウンド
内容
ニユースポーツ体験
フライングディスク、ダーツ、スポーツ吹矢、トランポビクス、リズムなわとびなど
チャレンジゲーム
ストラックアウト、フリースロー、キックターゲットなど
レクリエーションゲーム
伝承遊び(ペーゴマ、けん玉など)、赤ちゃんダービーなど
デモンストレーション
マーチングバンド、エアロビ

ドッジボール大会参加者募集
時間 10時～12時(予定)
チーム編成 1チーム8人(小学校3年生)・小学校6年生(男女混合でも可)
申込方法 9月9日(金)までに、はがきに、チーム名、代表者氏名、郵便番号、住所、電話番号を書いて、申し込んでください。また、FAXでの申し込みも受け付けています。
申込・照会先 〒250・0522 箱根町元箱根164・1箱根町総合体育館「レイクアリーナ箱根」 ☎6・3300、FAX 6・3100

「西さがみ連邦共和国」で開かれるイベントに参加しよう!

イベント名	日時	内容	場所	対象者	申込方法など	申込・照会先
郷土研究講座「古文書に親しもう(初心者向き)」	9月10日(土)・11日(日) 各日13:00～15:00	入門編として古文書の読み方を学びます。講師 立正大学講師 松尾公就さん	郷土文化館	2日間とも参加できる方30人	電話で申し込みください。(8月19日から先着順で受付中)	小田原市郷土文化館 0465 23 1377
第25回全国豊かな海づくり大会小田原地域大会～第15回小田原みごとまつり～	9月11日(日) 9:00～17:00	相模湾のさわやかな水族館、アジの干物づくり教室、漁業指導船「江の島丸」船内見学、アユのつかみどり、みなとのステージ、みなとの大抽選会、新鮮市場物販コーナー など	小田原漁港ほか	どなたでも可	申込不要	小田原市豊かな海づくり・小田原みごとまつり事務局(水産海浜課) 0465 22 9227
尊徳歴史講座	9月21日(水) 9:00～16:00	御厨郷(みくりやごう)と呼ばれた富士東麓地方(御殿場・駿河小山)を訪ねます。講師 報徳博物館館長代理 齋藤清一郎さん	尊徳記念館	18歳以上20人(定員を超えた場合は抽選)	9月7日(水)10:00に尊徳記念館で直接受付、または9月6日(火)必着で往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記載し郵送	小田原市尊徳記念館 0465 36 2381 〒250 0852 小田原市栢山2065 1
第19回音楽教養講座	10月30日(日)、11月3日(木)、5日(土) 13:30～15:30	クラシック音楽入門クラシック音楽を鑑賞しながら、音楽家たちにまつわる数々のエピソードを紹介します。	かもめ図書館	各日100人(1日のみの受講でも可)	9月15日(木)から電話または直接で先着順	小田原市かもめ図書館 0465 49 7800
第7回 城下町おだわらツアー	11月19日(土)、20日(日)	19日(土):小田原コース、真鶴・湯河原コース 20日(日):箱根コース、小田原コース 参加費 一般1,500円、中学生以下200円		どなたでも可(小学生以下は保護者などの同伴をお願いします)	申込期間 9月1日(木)～10月4日(火)	小田原市城下町おだわらツアー実行委員会事務局 0465 38 1198

注 申込方法など詳細はお問い合わせください。

まちかどレポート

箱根の魅力伝えたい

第4回 箱根コミュニティカレッジ学長 吉田賢祐さん



「とにかく、箱根の魅力をよくの方に伝えたいんです。」

う笑いながらお話しになるのは、吉田賢祐さん(72歳)です。

吉田さんは、退職後、箱根の観光ガイドの養成にボランティアで取り組む「箱根コミュニティカレッジ」の観光英語講座の公募を見て、第1期生として参加されて以来、箱根の虜になられ、現在ではカレッジの学長を務めていらつしゃいます。

このカレッジは、自然・温泉・文化歴史遺産の宝庫である箱根の魅力をもっと知りたいたい、感じたい」という方と実際に出かけ、その素晴らしさをより多くの人と共有するのが主な楽しんでもらえるように、ご理解と協力をお願いします。

毎年9月には、屋外広告の日にちなみ、行政や関係機関が違反の立看板などを除却する県下一斉の除却パトロールを行っています。

現在、延登録受講者数は40～80歳代まで260人もおり、毎月箱根に集まって、「観光英語講座」や「文化歴史講座」、「ハイキング講座」などで勉強を重ねています。

特にハイキング講座は受講希望が多かったことから、開講されたとのことでした。

しかし、高齢者の参加も多く、また、山道で複雑な道を歩くため、安全対策には一番気を使うそうです。開講当初は、自力で山から降りることができなくなってしまう方もいたそうですが、最近は参加される方も箱根のことと相談できるようになってケガをされる方はほとんどいないとのことでした。

また、お孫さんに教えるのが楽しみというスキは指導資格をもつほどの腕前で、参加される方に運動面でも的確なアドバイスができていたのではないのでしょうか。

吉田さんや役員の方の努力に

照会先 土地利用計画課 ☎5・9566

地震のとき わが家はだいじょうぶ?

木造住宅耐震診断補助制度を利用してみませんか?

昨年10月の新潟県中越地震や本年3月の福岡県西方沖地震では、多くの建物が被害を受けました。

町では、今後心配される東海地震などから、被害を最小限に食い止めるため、昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震診断に要する費用の一部を補助しています。

対象建築物
●木造住宅(自己用)
●2階建以下
●昭和56年以前の建築物
以上の条件をすべて満たす場合に補助します。

ただし、ツーバイフォー住宅やアパート、長屋は対象外です。

補助金額 耐震診断に要する経費の3分の2で、2万円を限度とします。

町に申し込みをしていただく(社)神奈川県建築士事務所協会 西支部分から診断技術者を紹介します。

通常、診断費用は、3万円くらいかかるようです。

申込・照会先 土地利用計画課 ☎5・9566



ハイキング講座の様子

よりカレッジは、現在8年も続き、県外からも参加している人も多くいらつしゃることです。

やはり吉田さんたちの前向きな姿勢抜きではここまで続かなかつたでしょう。

吉田さんのモットーは人との出会いを大切(財産)にして相手への思いやりを常に心がけ、自分の欠如を相手から学ぶ事だそう。まさにカレッジでそのことを実践されているのではないのでしょうか。

吉田さんの箱根への思いは終わることはありません。そして、更に切磋琢磨し、自分の足りないところの研鑽に努め、箱根の持つすばらしさを少しでも多くの人々に伝えていきたいと最後に熱く語ってくれました。

まちかどレポーター 浅野尚栄

